

法政大学論集・経済志林総目次

(出版者 / Publisher)

法政大学経済学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The Hosei University Economic Review / 経済志林

(巻 / Volume)

48

(号 / Number)

4

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

44

(発行年 / Year)

1981-03-25

法政大学論集・経済志林総目次

法政大学論集 創刊号 (一九二五年 大14)

効用及び費用の概念と経済の概念

高木友三郎

固定的階級に就て

松本潤一郎

政治と国家

戸沢鉄彦

近世地主の発達に関する考察

小野武夫

婦人解放論に於けるジェ・エス・ミルの

哲学的基礎

香山勇二

支那の関税會議と裁釐加税問題

木村増太郎

神宮寺の思想に就いて

竹岡勝也

明治維新の財政と太政官札

三宅鹿之助

王朝時代に於ける女の売買

滝川政次郎

資料紹介

所有権秩序の発生(ヴント)

平野義太郎

恐慌の性質の変遷(ヒルファァーディング)

友岡久雄

第二巻 第一号 (一九二六年七月 大15)

論説

生命保険の欠陥

錦織理一郎

貨幣価値の本質

高木友三郎

石油企業を論ず

水口音三郎

コンモンスの経済思想

友岡久雄

婦人解放論に於けるミルの哲学的基礎

香山勇二

世界経済の概念について

平野常治

資料紹介

歴史的時間の問題(ジムメル)

関栄吉

山室宗文氏著『我国の金融市場』

三宅鹿之助

第二巻 第二号 (一九二六年十二月 大15)

論説

支那財政組織論

木村増太郎

ミルの投機論

小西憲三

婦人解放論に於けるジェ・エス・ミルの

哲学的基礎

香山勇二

封建制度の時代的特色と農村社会の推移

小野武夫

マルクスの恐慌学説と現代世界経済の恐慌

平野常治

資料

越後国地割制度の分布に就て

小野武夫

製糸金融の現状と改善問題

経済学部研究室

本邦電気事業の現勢と電力統制問題

経済学部研究室

紹介及批評

井上準之助著『我國國際金融の現状及改善策』友岡久雄

本邦鐵道事業の現勢と問題
仏蘭西に於ける同職組合の起源経済学部研究室
平貞藏

第二卷 第三号 (一九二七年四月 昭2)

論 說

生命保險と自由競争
生産の概念に就て錦織理一郎
小西憲三

ミューリヤーの“Phaseologische

Methode”に就て

喜多野精一

資 料

金の生産並にStocksに就て

水口音三郎

綿糸金融の現状と問題

経済学部研究室

紹介及批評

高垣寅次郎著『貨幣の生成』

友岡久雄

第三卷 第一号 (一九二七年七月 昭2)

論 說

金利の高低原因と我國の金利

高木友三郎

パーペの簿記学説

高橋一太郎

集團形態としての階級の二三の特性

松本潤一郎

農工銀行の純不動産銀行化の要求に就て

小西憲三

資 料

米穀金融の現状と問題

経済学部研究室

第三卷 第二号 (一九二七年十二月 昭2)

論 說

我國の食糧問題と支那の經濟資源
黎明期に於けるドイツ社会經濟思想木村増太郎
岸本誠二郎

經濟政策としての帝國主義

平野常治

資 料

景氣政策と我國の方策

経済学部研究室

昭和二年金融恐慌の経過及原因に就て

経済学部研究室

紹介及批評

クノウ『一般經濟史』

喜多野精一

世界經濟に関するヘルマン・レヴィの二著

平野常治

仏蘭西經濟史研究の近状

平貞藏

法政大学五十周年記念論文集

法政大学論集
第三卷第三号第四卷
第一号合併号

(一九二八年九月 昭3)

二三の社会型理論の比較的考察

松本潤一郎

精神科学と社会科学

城戸幡太郎

歴史の解釈と創造

小西憲三

コントとミルとの關係史(一)

香山勇二

3 経済志林総目次

会计学上に於ける現金割引 クナツプ、ベンディクセン、エルスターの 貨幣論(一)	高橋 一太郎	社会学と史学との關係に就いて 資料	岡村 精一
リストの歴史主義と経済学説 (リスト研究その二)	友岡 久雄	明治初年の「開化」思想と農村 紹介及批評	小野 武夫
わが国に於ける企業結合の發達 (附録法政大学論集及講演集総目次)	岸本誠二郎 山村 喬	カウツキー著『唯物史観』の一節 パウル・ドイッチェ・景氣變動の 經營経済学的研究	阿部 勇
第四卷 第二号 (一九二九年三月 昭4)		鈴木武雄『世界經濟と金解禁問題』	平野 常治 友岡 久雄
論 說		第五卷 第一号 (一九三〇年三月 昭5)	
取引所限月問題と投機取引 取引所の保險的機能に就て	木村増太郎 錦織理一郎	論 說	阿部 勇
資料		独占資本主義時代に於ける国家財政の意義 消費組合の限界に就いて	山村 喬
株式取引所限月短縮問題管見 英米独仏株式取引所制度	石黒 貫二 経済学部研究室	フランスに於ける商業の發達 ロンドン株式取引所の歴史	石黒 貫二
附 録		社会秩序及其維持作用に就いて 經濟と国家との關係特に公企業に就いて	松本 信次 藤田 喜作
取引所文献目録	経済学部研究室	景氣變動と不均衡の問題 琉球古代村落の片影	平野 常治 静田 均 小野 武夫
第四卷 第三号 (一九二九年九月 昭4)		資料	
論 說		原料価格と製造品価格との相對的變動 重要資本市場に於ける有価証券発行と 國際的資本交錯	経済学部研究室 経済学部研究室
我國國際的地位と日本人種論 経済学四分法の問題 証券定期取引論	高木友三郎 岸本誠二郎 松本 信次		

経済学部十周年記念論文集 (第五卷 第二号)

(一九三二年六月 昭6)

資料

ドイツ工業全国同盟の組織機構

経済学部研究室

紹介批評

波多野鼎氏著『経済学史概論』

岸本誠二郎

小畑茂雄氏訳『リカード貨幣銀行論集』

友岡久雄

第六卷 第二号 (一九三三年九月 昭7)

論説

経済行為と衝動との関係

高木友三郎

商品勘定に関する一考察

高橋一太郎

ゴール以前の経済生活

平貞蔵

戦後の国際農業恐慌

青田均

資料

ドイツの失業原因に関する一資料

南 謹二

紹介批評

ビーヴァーリッヂの関税政策批判

平野常治

近藤康男氏の『農業経済論』を読む

静田均

人間及びその諸能力の発達に就いて

山村貞喬

第七卷 第一号 (一九三三年二月 昭8)

論説

分配理論の二途

岸本誠二郎

インフレーションに関する一考察

友岡久雄

経済学部十周年記念論文集 (第五卷 第二号)

(一九三二年六月 昭6)

株式配当所得課税問題

木村増太郎

経済学と慾望並に合理化

高木友三郎

ミルの特殊社会科学方法論に及ぼす

香山勇二

コールリッヂの影響

岸本誠二郎

静態動態論経済学研究への序説

国際貿易の発展を通じて見たる

資本主義世界経済の発展

平野常治

カッセル景気理論への一考察

静田均

ドイツ銀行の証券売出業務と

株式取引所機能との関係

松本信次

失業と賃銀

南 謹二

独占資本主義と恐慌

阿部 勇

経済志林第六卷 第一号 (一九三三年三月 昭7)

論説

静態動態論の純粹理論的根拠

岸本誠二郎

戦後の世界貿易と関税問題

平野常治

ギルバートの銀行券流通に関する見解

渡辺佐平

総合貸借対照表

高橋 茂

八ヶ岳裾野の入会林野

小野武夫

5 経済志林総目次

世界恐慌下の国際貿易政策	平野 治 常
島根半島に於ける山論の研究	小野 武 夫
日本に於ける米穀問題	静 田 均
ドイツ工業全国同盟の組織構成(続)	経済学部研究室
第七卷 第二号 (一九三四年三月 昭9)	
論 説	友岡 久 雄
貨幣の流通手段の機能に就いて	阿 部 勇
企業負担の一研究	静 田 均
日本に於ける米穀問題	松 本 信 次
株式取引所に関する研究	渡 辺 佐 平
合衆国に於ける国立銀行支店設置権の拡大	高 橋 茂
綜合損益計算表	
資 料	シアルル・ジイド
フイジオクラアト	
第八卷 第一号 (一九三四年七月 昭9)	
論 説	岸本誠二郎
価値・価格・貨幣	小野 武 夫
兵農制度の時代的发展	松 本 信 次
ドイツ信用銀行論序説	平野 常 治
配給費の研究	
ニュー・ディールの一周年を迎えて	阿 部 勇
資 料	シアルル・リスト
アダム・スミス	
第八卷 第二号 (一九三五年一月 昭10)	
論 説	小野 武 夫
近代地主と村落経済	大塚 久 雄
所謂前期的資本なる範疇に就いて	山 村 喬
生産組合に就いて	経済学部研究室
資 料	シアルル・リスト
華僑の経済	シアルル・ジイド
アダム・スミス	
悲観論者(マルサスとリカアド)	
第九卷 第一号 (一九三五年五月 昭10)	
論 説	岸本誠二郎
需要供給論	友岡 久 雄
貨幣、貨幣資本及び利子	平野 常 治
市場調査論	阿 部 勇
転換期のニュー・ディール	松 本 信 次
ギョッペルトの取引所制度論	経済学部研究室
資 料	
カール・メンガー評伝	

悲観論者（マルサスとリカアド）

シアルル・ジイド

第九卷 第二号（一九三五年七月 昭10）

論 説

貨幣、貨幣資本及び利子附資本

友岡久雄

モーレット報告とその意義

南 謹二

株式取引所と国際証券市場

松本信次

株式会社発生前史の一齣

大塚久雄

紹介・資料

恐慌対策の批判

経済学部研究室

世界における鉄道と自動車との競争

経済学部研究室

ファッシスト・イタリアの農業協同組合

山村 喬

シスモンデイと批判学派の起源

シアルル・リスト

第九卷 第三号（一九三五年十二月 昭10）

論 説

競争価格と独占価格

岸本誠二郎

銀行会計の帳簿組織

高橋一太郎

十六世紀後半のマルセイユに於ける

大塚久雄

南独逸人の東邦貿易

大塚久雄

信用制度の発達

渡辺佐平

トウクの『通貨原理の研究』の抜書

友岡久雄

資 料

サヴェート聯邦の外国貿易及び貿易制度

平野常治

第十卷 第一号（一九三六年三月 昭11）

論 説

最近農村塾風教育の動向

小野武夫

ドイツにおける農業統制組織の現状（一）

美濃部亮吉

英吉利初期資本主義の支柱たる

毛織物工業の展開（一）

大塚久雄

株式取引所の設立取引所独占権及び

地方取引所問題

松本信次

トウクの通貨原理の研究の抜書

友岡久雄

紹介

ハインリッヒ・ジーフェキング『経済史』

大塚久雄

キング『ロンドン割引市場の歴史』

渡辺佐平

第十卷 第二号（一九三六年七月 昭11）

論 説

貨幣数量説の萌芽形態

岸本誠二郎

ドイツにおける農業統制組織の現状（二）

美濃部亮吉

貨幣、貨幣資本及び利子附資本（続）

友岡久雄

ドイツにおける

労働者保護法成立史の側面

南 謹二

株式会社としての和蘭東印度会社

大塚久雄

7 経済志林総目次

紹介

東畑精一『日本農業の展開過程』を読む 経済学部研究室

第十卷 第三号 (一九三六年二月 昭11)

論 説

ミルの一般社会科学方法論に及ぼす

コールリッヂの影響

株式会社発生史論の基本問題

独逸信用銀行の設立

資料 及 紹介

東北饑饉の新史料

上海満鉄資料『恐慌の発展過程に於ける

支那幣制改革の研究』

新刊 二書

第十一卷 第一号 (一九三七年二月 昭12)

論 説

限界効用価値説と貨幣数量説

現代貿易政策批判

ドイツ証券金融市場の研究(上)

株式会社発生史の基本問題(続)

紹介

ペンドルフ商業学史

第十一卷 第二号 (一九三七年七月 昭12)

論 説

景気回復と財政政策の帰趨

ドイツに於ける農業統制組織の現状(三)

ドイツ証券金融市場の研究(下)

消費組合の将来性

紹介

ドイツに於ける最近の株式取引所改革論

大内兵衛著『日本財政論—公債篇』

第十一卷 第三号 (一九三七年二月 昭12)

論 説

ケンブリッヂ学派に於ける

貨幣数量説の発展

フランス証券金融市場の研究

戦時社会政策の課題

概観欧洲「農耕」型

紹介

最近十一年間における農家経済の動態

ヨーロッパ諸国に於ける経済学教育

阿部 勇

美濃部 亮吉

松本 信次

山村 喬

松本 信次

友岡 久雄

友岡 久雄

岸本 誠二郎

松本 信次

南 謹 二

岡 保次郎

経済学部研究室

経済学部研究室

松本 信次

第十二卷 第一号 (一九三八年三月 昭13)

論 説

日本原始農業に関する考察

小野 武夫

小売商問題と商業組合、商店街、

百貨店法及び商店法

平野 常治

近世ヨーロッパ経済史に於ける

毛織物工業の地位

大塚 久雄

紹 介

ヨーロッパ諸国に於ける経済学教育

経済学部研究室

第十二卷 第二号 (一九三八年八月 昭13)

論 説

信用及び信用制度に関する一考察

友岡 久雄

小売商統制論

平野 常治

欧洲大戦とドイツ株式取引所

松本 信次

資 料 及 紹 介

景気変動と保険

錦織理 一郎

十九世紀前葉の貨幣信用学説

経済学部研究室

難波田春夫氏の『国家と経済』第一卷

(序説)を読む

岸本誠 二郎

梶山力訳『マックス・ウェーバー、プロ

テストンティズムの倫理と資本主義の

精神』

大塚 久雄

第十二卷 第三号 (一九三八年二月 昭13)

論 説

変動に於ける価格の考察

岸本誠 二郎

取引所とは何ぞや

松本 信次

リチャード・デューンズの立場

亀島 泰治

帝国鉄道会計制度の沿革

富田勝之助

紹 介

山上金男著『浙江財閥論』

渡辺 佐平

第十三卷 第一号 (一九三九年三月 昭14)

論 説

棉花伝播史考

小野 武夫

再び信用に就いて

友岡 久雄

株式会社取引所の職能

松本 信次

英吉利初期資本主義の支柱たる

毛織物工業の展開(二)

大塚 久雄

紹 介

協同組合に関する新刊数種

山村 喬

第十三卷 第二号 (一九三九年八月 昭14)

論 説

9 経済志林総目次

東亜協同体の問題	高木友三郎
価格の分裂と変動	岸本誠二郎
ライヒス・バンクの投機抑制政策	松本信次
資料及紹介	
ルヨ・ブレンターノ、ピューリタニズムと資本主義	大塚久雄 訳
戸田正雄訳ミル『経済学原理』	岸本誠二郎
宮本又次著『株仲間の研究』及び	
山岡亮一訳『ゴルツ・独逸農業史』を読む	大塚久雄
戦後イギリス税制概観	亀島泰治
スタンリ・ジュヴオンズ評伝	経済学部研究室
第十三巻 第三号 (一九四〇年三月 昭15)	
論 説	
煙草渡来の沿革	小野武夫
戦時体制下に於けるインフレーションと公債消化の関係	友岡久雄
最近各国の通商政策	平野常治
十八世紀初頭に於けるイギリスの対スペイン貿易に就いて	大塚久雄
アドルフ・ウェーバーの取引所論	松本信次
資料	
イギリスに於ける銀行集中	経済学部研究室
第十四巻 第一号 (一九四〇年七月 昭15)	
論 説	
価格統制論	岸本誠二郎
雑株市場論	松本信次
複会計制度の研究(一)	富田勝之助
紹介	
租税政策について	亀島泰治
第十四巻 第二号 (一九四〇年十二月 昭15)	
論 説	
火耕史料	小野武夫
複会計制度の研究(二)	富田勝之助
紹介及資料	
ランケ『強国論』	大塚久雄
ミーカー『株式市場を通じての有価証券の分配』	松本信次
第十四巻 第三号 (一九四一年六月 昭16)	
論 説	
経済倫理の課題	高木友三郎
証券資本主義	松本信次
暖簾の価値に関する一考察	高橋茂

資料

スエーデンに於ける消費組合と独占体 山村 喬

第十五卷 第一号 (一九四一年一〇月 昭16)

論 説

政治経済学の一論

岸本誠二郎

近代資本主義発達史に於ける商業の地位
輸出補償制度について大塚久雄
平野常治

資料 及 紹介

エマヌエル・スタイン、

『株式会社と其の証券所有者』

松本信次

與田孝一著『戦時インフレーションと

其の対策』

渡辺佐平

イギリスの浮動公債

亀島泰治

第十五卷 第二号 (一九四二年二月 昭17)

論 説

中国証券市場

松本信次

貨幣の積極性

迫間真治郎

米国投資会社法成立の事情に就いて

松本信次

紹 介

『日本地方財政制度の成立』を読む

亀島泰治

第十五卷 第三号 (一九四二年七月 昭17)

論 説

農村更生運動の顛末とその時代的意義

小野武夫

日本経済の構成要素としての家族

岸本誠二郎

総合配給所論

山村 喬

紹 介

ソヴイエットに於ける割当配給に就て

経済学部研究室

三十三年間に於ける英国労働者の

所得及生計費の変化

経済学部研究室

第十六卷 第一号 (一九四三年六月 昭18)

論 説

金融統制会に就いて

渡辺佐平

南方圏の財政

亀島泰治

資 料

キャンプ『市場物語』

松本信次訳

住宅問題対策

経済学部研究室

第十七卷 第一・二合併号 (一九四九年一〇月 昭24)

法政大学創立七十周年記念論文集

正貨支払の再開と通貨収縮

ピール通貨法についての一覚え書

渡辺佐平

財政学の「独自性」について

商業利潤と商業労働

労働力の特殊性と社会政策

——社会政策本質論序説——

ムーア『労賃の法則』について

綿業における国内市場の形成

クリップスの

デイス・インフレーション政策

パチョーリ『簿記論』の研究(その一)

第二次世界戦争中における

アメリカ経済の飛躍的な拡大

宇佐美 誠次郎
大島 清之

上杉 捨彦
沓 水 勇

揖 西 光速

菰 淵 鎮雄

片 岡 義雄

友 岡 久雄

第十八巻 第一号 (一九五〇年一月 昭25)

論 説

価値形態論と交換過程論

価値論に於ける「社会的必要労働」の概念

——社会的使用価値の問題——

価値の実体とその抽象について

——宇野教授対遊部氏の見解について——

久留間 鮫造

迫間 真治郎

中 野 正

紹 介

マルクス・エンゲルス選集第六巻上・下

『中国・インドおよび植民地問題』

田 代 正夫

第十八巻 第二号 (一九五〇年四月 昭25)

論 説

価値論における社会的必要労働の概念

(承前)

農業における生産関係と土地所有

労働基準法の役割について

——第一回労働基準監督年報を見る——

紹 介

最近の幕末経済段階論

雑 録

人民戦線以降のフランス労働運動

迫間 真治郎
大島 清之

上杉 捨彦

揖 西 光速

山 村 喬

第十八巻 第三号 (一九五〇年七月 昭25)

論 説

価値形態論と交換過程論(二)

イタリヤに於ける復式簿記の成立

——パチョーリ『簿記論』研究の一齣——

社債割引金について

——殊に借款の場合に於ける計算面からの一考察——

久留間 鮫造

片 岡 義雄

高 橋 茂

中小企業と協同組合

——企業組合について——

平 野 常治

現段階における

アメリカ・ブームに対する評価

紹介

燕淵 鎮雄

木村禧八郎著『紙幣の運命』

渡辺 佐平

第十八卷 第四号 (一九五〇年一〇月 昭25)

論 説

信用の基礎的形態について

友岡 久雄

ヴィクセル図式について

——シュンペーター『景気論』における

ヴィクセル批判の研究——

沓 水 勇

近世八王子機業における商人資本の展開

揖 西 光速

紹介

スキージ『社会主義』

迫間 真治郎

ラスキ『共産党宣言への歴史的序説』

山 村 喬

第十九卷 第一号 (一九五一年一月 昭26)

論 説

価値形態論と交換過程論(三)

久留間 鮫造

日本戦時財政史の一断章

——軍費「現地調弁」のカラクリ——

宇佐美 誠次郎

恐慌の現実的基礎について

田 代 正夫

最近における我国労務管理論の特色

——山城・藻利・森三教授の著作について——

東三河における綿織物業の発展

紹介

佐竹 義昌
鈴木 徹三

ジョーン・ロビンソン

『マルクス経済学に関する試論』

中 野 正

第十九卷 第二号 (一九五一年四月 昭26)

論 説

信用の基礎的形態について(承前)

友岡 久雄

内部統制制度と公認会計士

森 吉之助

パチョーリ『簿記論』の研究(その二)

紹介

裕 正夫教授『農業経済論』

大 島 清之

『剰余価値学説史』改訂出版のための

マルクス・エンゲルス、レーニン研究所の要綱案

奥沢 篤次郎

雑 録

高野岩三郎先生追憶会の記

大原社会問題研究所

第十九卷 第三・四合併号 (一九五一年一〇月 昭26)

経済学部創設三十周年記念論文集 第一輯

論 説

信用の基礎的形態(掛売り)

農業における「相対的剰余価値」

農業における生産力と土地所有

——農業後進性の原因に関する一考察——

金融市場の理論(一)

——シュンペーター『景気論』の研究——

パチョーリ『簿記論』の研究(その三)

国有鉄道の労働災害

附 録

創刊以来の論文総目次

友岡久雄
中野正

大島清之

沓水勇

片岡義雄

佐竹義昌

附 録

経済学部創設三十周年記念祝典記事

第二十卷 第二号 (一九五二年四月 昭27)

論 説

生哲学の認識一般論並に経済認識論

帝国主義の植民地貿易及び投資政策

英国における国有化の問題

パチョーリ『簿記論』の研究(その四・完)

紹 介

エイ・デイ・リンゼイ『マルクスの資本論』

高木友三郎
平野常治
迫間真治郎
片岡義雄
中野正

第二十卷 第一号 (一九五二年一月 昭27)

経済学部創設三十周年記念論文集 第二輯

論 説

商業概念と商業科学

初度監査の体験

減価償却の一つの意義

『哲学の貧困』のマルクスによる

訂正について

価値の運動形態としての価値法則

——価値法則に関する覚書(一)——

戦時経済統制と統制会

平野常治
森吉之助
高橋茂
山村喬
奥沢篤次郎
鈴木徹三

論 説

トレンズのピール銀行法擁護論

日本農業と賃労働

価値の形態について

資金の流れ

紹 介

バルー編『労働党治下のイギリスの

協同組合運動』

渡辺佐平
大島清
奥沢篤次郎
沓水勇
山村喬

第二十卷 第四号 (一九五三年一〇月 昭27)

論 說

価値の実体について

中野 正

価値の形態について(続)

奥沢篤次郎

株式会社 of 整理会計

片岡 義雄

紹 介

福本和夫著『日本農村の階級区分』

大島 清

リカード経済学の生成と価値を周る

諸問題、スラファ編『リカード全集』

時 永 淑

第二十一卷 第一号 (一九五三年一月 昭28)

論 說

国際貿易協定とアメリカの世界経済政策

平野 常治

価値形態と交換過程(一)

中野 正

トップ・マネージメントとコントローラー

森 吉之助

紹 介

コール著『消費組合の百年』

山村 喬

藤田五郎著『封建社会の展開過程』

山本 弘文

第二十一卷 第二号 (一九五三年四月 昭28)

論 說

価値形態について

奥沢篤次郎

スターリン論文について
貯蓄の流れ迫間 真治郎
沓 水 勇

紹 介

石渡貞雄著『林業地代論』

日 高 普

島恭彦著『現代地方財政論』

高 橋 誠

第二十一卷 第三号 (一九五三年七月 昭28)

論 說

経済の概念・理念・価値
及び法則との関連性

高木友三郎

『資本論』と恐慌論との関連について

宇野教授に答う

久留間 鮫造

創造されたバランスの流れ

沓 水 勇

紹 介

トニー著『攻撃その他』

山 村 喬

第二十一卷 第四号 (一九五三年一〇月 昭28)

論 說

価値形態と交換過程(二)

中野 正

銀行の貸付志向および資力について

沓 水 勇

減価償却の一面

高 橋 茂

紹 介

宇野弘蔵著『社会科学のために』

日 高 普

シエハアブ著『イギリス所得税における
累進原則の発展』

高橋 誠

第二十二巻 第一号 (一九五四年一月 昭29)

論 説

公正取引の確保について

——不正競争と不正な取引方法——

平野 常治

価値形態と交換過程(三)

中 野 正

価値の生産価格への転化の理論

奥沢 篤次郎

紹 介

大野精三郎著『ジョーンズの経済学』

時 永 淑

歴史学研究会編『近代日本の形成』

山 本 弘 文

第二十二巻 第二号 (一九五四年四月 昭29)

論 説

原価差額の調整

森 吉之助

メンバー・クリエーションの問題

沓 水 勇

明治前期における財政政策の展開

高 橋 誠

「強められた労働」の問題(一)

日 高 普

紹 介

玉野井芳郎著『リカードからマルクスへ』

時 永 淑

第二十二巻 第三号 (一九五四年七月 昭29)

論 説

価値形態と交換過程(四)

中 野 正

米価と生産費

大 島 清

パチヨリ『簿記論』の概観

片岡 義雄

アダム・スミス価値論の意義と限界(一)

時 永 淑

——その成立史的考察——

紹 介

コール著『社会主義社会に於ける
イギリス協同組合運動』

山 村 喬

第二十二巻 第四号 (一九五四年一〇月 昭29)

論 説

価値形態と交換過程(五)

中 野 正

「強められた労働」の問題(二)

日 高 普

アダム・スミス価値論の意義と限界(二)

時 永 淑

——その成立史的考察——

薩藩天保改革の前提

山 本 弘 文

紹 介

飯田繁著『利子つき資本の理論』

衛 藤 綾子

林健太郎著『近代ドイツの政治と社会』

酒 井 昌 美

第二十三卷 第一号 (一九五五年一月 昭30)

論文

価値形態と交換過程(六)

中野正

わが国小作料は差額地代第二形態か

大島清

——大内教授の農産物価格論批判——

中央銀行による信用創造の問題

杳水勇

日清戦争「戦後経営」の財政史的意義

高橋誠

紹介

恐慌論に関する最近の三論作に就いて

古川哲

第二十三卷 第二号 (一九五五年四月 昭30)

論説

リカード経済学の生成と労働価値論との関連

——リカードの『低い穀物価格が資本の利潤に

およぼす影響にかんする一論』(一一八—

五年二月)成立の過程——

時永淑

生産性向上運動と労働者階級の相対的・

絶対的貧困化(一)

上杉捨彦

日清戦争「賠償金」の一研究

高橋誠

近世江戸近郊農村の一考察

——幕末豪農層発生の背景——

山本弘文

紹介

バーバラ・ウットン著『賃金政策の社会的基礎』

山村喬

第二十三卷 第三号 (一九五五年七月 昭30)

論説

リカード『原理』の生成と

その労働価値論との関連

時永淑

化政・天保期における豪農石井家の経営

山本弘文

恐慌の可能性について

古川哲

フランク王国をめぐる覚書

酒井昌美

紹介

シャルル・ベートウレーム著

『経済計画の理論』

奥沢篤次郎

第二十三卷 第四号 (一九五五年一〇月 昭30)

論説

価値形態と交換過程(七・完)

中野正

内部統制と試査

森吉之助

差額地代第二形態論の問題点

日高普

リカード貨幣論の展開

衛藤綾子

紹介

末永茂喜編『古典学派の批判』

時永淑

第二十四卷 第一号 (一九五六年一月 昭31)

論 説

商品流通費の過大について

—— 広告費を中心として ——

平野 常治

農産物価格と価値法則

—— 山田勝次郎氏の価格論批判 ——

大 島 清

生産性向上運動と労働者階級の

相対的・絶対的貧困化 (二)

上 杉 捨 彦

石油産業における国際的独占の発達 (一)

鈴 木 徹 三

紹 介

サー・ジェイムズ・スチュアートの生涯

一七二二年—一七八〇年 (『スチュアート全集』)

第六卷所収より)

中 野 正 訳

第二十四卷 第二号 (一九五六年四月 昭31)

論 説

一八一九年の恐慌とリカアドオ

中 野 正

支出率、粗所得速度、粗所得速度について

—— ふたたび支出の流れについて ——

沓 水 勇

差額地代第二形態論の展開

日 高 普

紹 介

G・S・L・タッカー著

『リカード利潤論の起源』

時 永 淑

第二十四卷 第三号 (一九五六年七月 昭31)

論 説

株式会社の自己資本の構成

片 岡 義 雄

最劣等地に生ずる差額地代について

日 高 普

明治末期の外債をめぐる諸問題

高 橋 誠

薩摩藩の天保改革

—— 改革前の状態と改革の歴史的 성격 ——

山 本 弘 文

紹 介

鎌田正三著『アメリカの独占企業』

西 村 閑 也

吉村正晴著『日本貿易政策』

花 原 二 郎

第二十四卷 第四号 (一九五六年一〇月 昭31)

論 説

価値形態論と交換過程論

久 留 間 鮫 造

支出率、粗所得速度、純所得速度について

沓 水 勇

—— わがくに戦後についての測定 ——

古 川 哲

資本の絶対的過剰生産について

酒 井 昌 美

共同体の若干の問題

—— ドイツ史の形成をめぐる ——

酒 井 昌 美

紹 介

コーリン・クラーク著『社会保障と租税』 上杉捨彦
加藤 清 訳

第二十五卷 第一号 (一九五七年一月 昭32)

論 説

形態論と弁証法

中野 正

農産物価格と小作料

大島 清

——大内力氏の反論に答えて——

差額地代第二形態論について

日 高 普

マルクスにおける「相対的過剰人口」論の

成立にかんする一考察

時 永 淑

紹 介

エリック・エル・ウィガム著『労働組合』

山 村 喬

第二十五卷 第二号 (一九五七年四月 昭32)

論 説

『神の秩序』初版における

ズエースミルヒの統計思想

有沢 広 己

経済学的抽象について(一)

——理論的抽象と歴史的抽象——

中 野 正

紹 介

W・A・ワード著

『一八世紀におけるイギリスの地租』

高 橋 誠

ミーク著『労働価値説の研究』 尾形 憲
ウールリッヒ・フォン・フッテンの
対話集について 良 知 力

第二十五卷 第三号 (一九五七年七月 昭32)

論 説

経済学的抽象について(二)

——理論的抽象と歴史的抽象——

中 野 正

恐慌論における二つの型

——ヴァルガ対ヒルファードィング——

菰淵 鎮 雄

マルクスにおける「相対的過剰人口」論の

成立について(続)

時 永 淑

収益法則に経営費用

——グーテンベルグの生涯——費用理論

を中心にして——

内 藤 三 郎

紹 介

山口和雄著『明治前期経済の分析』

山 本 弘 文

エム・ジェファリーズ著

『労働市場における移動性』

徳 永 重 良

第二十五卷 第四号 (一九五七年一〇月 昭32)

論 説

社会統計学又は経済統計学における

標本論の意義

錦織理一郎

企業評価に関する若干の考察

片岡義雄

ペイメント・マトリックスと貨幣の諸問題

杳水勇

絶対地代の概念

日高普

経営計算制度の展開過程

——十七—十九世紀イギリスを中心に——

神田忠雄

紹介

松崎寿『本邦中小工業金融論』

西村閑也

第二十六巻 第一号 (一九五八年一月 昭33)

論 説

生産性向上運動と労働者階級の

相対的絶対的貧困化(三)

上杉捨彦

絶対地代と価値法則

日高普

初期所得税制の形成と構造

——日本所得税制史論 その一——

高橋誠

天保改革後の薩藩の政情(一)

——いわゆる「嘉永朋党事件」を中心として——

山本弘文

経済と技術の発展法則

——現代資本主義論序説——

今井則義

紹介

エリ・イ・フレイ著、堀江正規、朝野勉訳

「資本主義諸国の国際決済と貿易金融」

花原二郎

第二十六巻 第二号 (一九五八年四月 昭33)

論 説

経済学的抽象について(三)

——理論的抽象と歴史的抽象——

絶対地代の根拠

中野正
日高普

マルクスのヘーゲル批判

『経済学哲学手稿』にかんする一考察

時永淑
酒井昌美

ドイツ中世の都市と領主の問題(一)

マルクスにおける競争の概念について

尾形憲

紹介

ビー・イー・シェンフィールド著

『高齢者のための社会政策』

山村喬

五代龍作著『五代友厚博』

山本弘文

第二十六巻 第三号 (一九五八年七月 昭33)

論 説

東ドイツにおける資本主義経済研究の現状

宇佐美誠次郎

絶対地代論について

日高普

再生産表式論と恐慌理論

古川哲

フォイエエルバッハのヘーゲル批判によせて

良知力

イギリス失業政策史に関する一考察
紹介

徳永重良

エイ・レットフォード著

『マンチェスター商人と外国貿易』

野田正穂

ピョートル・マスロフ著

『ロシアにおける農業問題』

渡辺寛

第二十六巻 第四号

(一九五八年一〇月 昭33)

法政大学創立八十周年記念論文集 第一輯

論 説

売価政策と公正取引

平野常治

農産物価格の基本問題

大島清

恐慌論の原型への省察

菰淵鎮雄

マネーネス、シフトビリティ、

沓水勇

資産選好について

日高普

差額地代の一般的概念について

今井則義

循環における価値と価格の運動法則

神田忠雄

分権管理の基本的性格

内藤三郎

「函数主義」と技術経済

内藤三郎

第二十七巻 第一号

(一九五九年一月 昭34)

法政大学創立八十周年記念論文集 第二輯

論 説

収入について

久留間鮫造

非常貸借対照表に関する若干の考察

片岡義雄

マルクス『経済学哲学手稿』の性格

時永淑

明治後期の所得税制

高橋誠

附 録

戦後復刊以来の論文総目次

第二十七巻 第二号

(一九五九年四月 昭34)

論 説

差額地代第一形態論の端緒

日高普

明治前期の貿易金融機構にかんする小論

高橋誠

ドイツ中世の都市と領主の問題(二)

酒井昌美

カウツキーの『農業問題』について

渡辺寛

イギリス株式会社の構造的特質について

野田正穂

紹介

磯田進著『労働法』第三版

山村喬

第二十七巻 第三号

(一九五九年七月 昭34)

論 文

通貨主義者としてのトウック

渡辺佐平

差額地代第一形態と価格調整

日高普

ドイツ中世の都市と領主の問題(三)

酒井昌美

ドイツ初期社会主義における歴史構成の論理

——ワイトリングとヘスをめぐつて——(二)

良知力

展 望

新中国における経済学の研究と教育

宇佐美 誠次郎

書 評

M・J・ナドワーニー『科学的管理法と

労働組合——一九〇〇—一九三二年の史的分析——』

薄 信一

星野芳郎『技術革新の根本問題』

森 川 英 正

大蔵省銀行局編『中央銀行制度』について

川 上 忠 雄

第二十七巻 第四号 (一九五九年一〇月 昭34)

論 文

世界経済恐慌の前提と条件

菰 淵 鎮 雄

独占資本と減価償却技術

経営学における資本——シュマーレンバッハ

内 藤 三 郎

紹 介

デー・イー・シポリヤンスキー著

『二〇世紀初頭における南ロシア鉱山・冶金業の独占』

野 田 正 穂

書 評

豊倉三子雄著『古典派恐慌論』

時 永 淑

J・M・ギルマン著『利潤率の低落』 尾 形 憲

第二十八巻 第一号 (一九六〇年一月 昭35)

論 文

部門速度・部門流動性、

セクターリングの理論

中間恐慌の研究

沓 水 勇

差額地代第一形態の序列

今 井 則 義

金輸出再禁止後における為替ダンピング

日 高 普

現代所得税制の展開

——日本所得税制史論(三)——

花 原 二 郎

紹 介

J・M・バディッシュ『人民資本主義』

高 橋 誠

W・E・ミンチントン『英国ブリキ工業』

古 川 哲

G・D・H・コール『階級構造の研究』

西 村 閑 也

第二十八巻 第二号 (一九六〇年四月 昭35)

小川教授追悼特集

小川一教授を悼む

徳 永 重 良

社会科学について(二)(遺稿)

渡 辺 佐 平

論 文

農産物価格と小作料・利子

小 川 一

薩摩藩の洋式工業(上)

大 島 清

山 本 弘 文

労務管理と賃金

——いわゆる「年功型賃金」について——

紹介

薄 信 一

ヘルマン・レヴィ『英国産業の過去および

現在における独占カルテルおよびトラス

ト』第2版一九二七

西 村 閑 也

ドイツ中世の辺境における都市共同体の成立について

——ハインリヒ・シプロエンベルグ教授生誕

六十五才記念論文集から——

酒 井 昌 美

書 評

平岡健太郎著『国際決済機構』

花 原 二 郎

小川教授年譜

第二十八巻 第三号 (一九六〇年七月 昭35)

論 文

地代論と技術改善(一)

日 高 普

「準備金」の財政的意義について

高 橋 誠

イギリス機械工業における資本と賃労働(一)

——帝国主義段階と労働問題——

徳 永 重 良

「労働者株式会社」小論

野 田 正 穂

戦前日本における銑鋼一貫化運動

森 川 英 正

第一次大戦後における興銀の産業金融

——大銀行の動向と関連させて——

川 上 忠 雄

書 評

大崎平八郎著『ソヴェト農業政策史』

渡 辺 寛

第二十八巻 第四号 (一九六〇年一〇月 昭35)

論 文

独占資本主義と恐慌

菰 淵 鎮 雄

経営分析の新課題

——構造的改革と関連させて——

神 田 忠 雄

ドイツ初期社会主義における歴史的構成の論理

——ワイルヘルム・ワイトリングと

モーゼス・ヘスをめぐって——(二)

初期レーニンの農業問題論

良 知 力
渡 辺 寛

第一次大戦後における興銀の産業金融(二)

——大銀行の動向と関連させて——

川 上 忠 雄

社会科学について(二)(遺稿)

小 川 一

森教授の訃

宇 佐 美 誠 次 郎

森教授略歴

第二十九巻 第一号 (一九六一年一月 昭36)

論 文

流動性および部門流動性の問題

沓 水 勇

地代論と技術改善 (二)

中期レーニンの農業問題論

貿易の自由化とドルの危機

紹介

シドニー・ポラード著『シェフィールド

における労働の歴史』によせて

書評

長谷川広著『労務管理論』

第二十九卷 第二号 (一九六一年四月 昭36)

論文

差額地代から絶対地代へ

国家独占資本主義論についての覚え書

後期レーニンの農業問題論 (一)

——二月革命から十月革命にいたる——

戦前日本財閥の重化学工業投資に関する企業史的考察

書評

W・スターク著、杉山忠平訳『経済学の思想的基礎』

——Werner Stark, The Ideal Foundations of

Economic Thought. London, 1943. 3rd

impression 1948——

紹介

日高普

渡辺寛

花原二郎

徳永重良

神田忠雄

日高普

古川哲

渡辺寛

森川英正

良知力

アメリカの鉄道建設とイギリス資本の役割 野田正穂

W. Whewell; Mathematical Exposition of some Doctrines of Political Economy. 中野正

第二十九卷 第三号 (一九六一年七月 昭36)

論文

投資計算と企業評価の原理

——財務過程における計算の要素と形式——

イギリス機械工業における資本と賃労働 (二)

——帝国主義段階と労働問題—— 徳永重良

レーニンの戦時共産主義政策

——後期レーニンの農業問題論 (二)—— 渡辺寛

書評

根箭重男著『保守主義会計の発現形態』 角瀬保雄

第二十九卷 第四号 (一九六一年一〇月 昭36)

論文

土地所有の独占とは何か

初期マルクス解釈史についての覚え書 日高普

管理スタッフ 良知力

——その計画職能を中心として—— 松岡磐木

紹介

経済学のいくつかの学説の数学的説明(Ⅱ)

W・ヒューエル・M・A・F・R・S 中野正

第三十巻 第一号 (一九六二年一月 昭37)

論 文

社会主義経済発展の法則的理解について 山内一男

経済学史の研究方法について 時永淑

カウツキーの農民政策論

——『農業問題』第二篇の研究—— 渡辺寛

書 評

大島藤太郎著『封建的労働組織の研究

——交通・通信業における——』 広岡治哉

吉村達次著『恐慌論の研究——

循環と変動の理論』 二瓶敏

第三十巻 第二号 (一九六二年四月 昭37)

論 文

破産会計に関する若干の考察

——株式会社特殊財務会計の一齣—— 片岡義雄

社会主義のもとでの商品生産 山内一男

利子論の端緒となるもの 日高普

イギリス機械工業における資本と賃労働(三)

——帝国主義段階と労働問題—— 徳永重良

満洲事変以後における

わが国株式市場の構造変化について 野田正穂

自由主義段階におけるバンク・レート(一)

——景気循環における信用関係の変動の分析——

紹 介

川上忠雄

Brown, Shipley & Co., Heir of Adventure

——The Story of Brown, Shipley & Co.,

Merchant Bankers. 西村閑也

第三十巻 第三号 (一九六二年七月 昭37)

論 文

ランカシア綿工業における株式会社の形成

——いわゆる Oldham Limiteds の

構造的性質について——

会計主体論展開の方向

野田正穂
角瀬保雄

自由主義段階におけるバンク・レート(二)

——景気循環過程における信用関係の変動の分析——

紹 介

川上忠雄

フィアス、コリンズ共著『鑄造業労働者—労働組合史』

H. J. Fyrth and Henry Collins, "The

Foundry Workers, A Trade Union History",

Manchester, 1959. X, 348 p 徳永重良

書 評

J・ストレイチー『帝国主義の終末』 森川英正

第三十巻 第四号 (一九六二年一〇月 昭37)

論 文

「経営者支配」について

——批判論深化のための一試論——

商業信用のもつ意味

統計的合法則性についての一考察

——N・K・ドゥルジーニンの見解について——

レーニンの新経済政策論

——後期レーニンの農業問題(三)——

世界市場の具体的・歴史的 성격について

第三十一巻 第一号 (一九六三年一月 昭38)

論 文

自由主義段階におけるバンク・レート(三)

——景気循環過程における信用関係の変動の分析——

ロンドン手形割引市場の構造変化について

——内国為替手形の「消滅」と

その諸原因を中心として—— 西村閑也

紹 介

J・R・メイヤー他

『運輸業における競争の経済学』

「スパン・オブ・コントロール」に関する問題点

——スヤーネンとアーウィックの

所説を中心として—— 一寸木俊昭

第三十一巻 第二号 (一九六三年四月 昭38)

論 文

商業信用と利子

オーストリアにおける

カソリック左派の思想をめぐって

二つの経営学の問題領域と

研究方法とに関する一試説

菅浦文書——その史料批判と若干の

問題によせて——

投資予算の論理的構造について〔1〕

——設備投資と企業の流動性——

紹 介

A・G・フォード『金本位制、一八八〇—

一九一四——英国とアルゼンチン』

書 評

広岡治哉

日高普

良知力

一寸木俊昭

関口恒雄

内藤三郎

西村閑也

堀新一著『理論商業学』

岡田裕之

第三十一卷 第三号 (一九六三年七月 昭38)

論文

ポートフォリオ・セレクションとリスクの問題

沓水 勇

イギリス機械工業における資本と賃労働(四)

—— 帝国主義段階と労働問題 ——

投資予算の論理的構造について(二)

紹介

徳永重良
内藤三郎

S. B. Saul: Studies in British Overseas

Trade, 1870—1914

西村 閑也

第三十一卷 第四号 (一九六三年一〇月 昭38)

論文

コンツェルン貸借対照表に関する若干の考察

—— 株式会社特殊財務会計の一齣 ——

商業信用から銀行信用へ

自由主義段階におけるバンク・レート(四)

—— 景気循環過程における信用関係の変動の分析 ——

片岡義雄
日高 普

再生産表式論と「内在的矛盾」の展開(上)

ロシア資本主義成立期の諸問題

川上忠雄
二瓶 敏

—— 工業をめぐる ——

中山弘正

紹介

リトルマン『会計理論・連続と変化』
ジイム・チャーヴァット『Supermarketing』角瀬保雄
岡田裕之

第三十二卷 第一号 (一九六四年一月 昭39)

論文

「貸付資本」という概念

イギリス絶対王政下の石炭業(一)

イギリス機械工業における資本と賃労働(五)

—— 帝国主義段階と労働問題 ——

明治期における私有鉄道の発達と株式発行市場の展開

—— わが国における私有鉄道の

発達と証券市場の形成(一)

公共支出と私的投資

—— ハンセン理論の検討を通じて ——

再生産表式論と「内在的矛盾」の展開(下)

会計公準論の展開

紹介

Gratton: Chesterfield and North

Derbyshire Banking Company

Rudolf Gunzert: Konzentration,

Markt und Marktbeherrschung

森川英正
二瓶 敏
角瀬保雄西村 閑也
岡田裕之

第三十二卷 第二号 (一九六四年四月 昭39)

論 文

経済学史の研究手法再論

——末永茂喜氏の論文にふれて——

時 永 淑

経済研究における数学の適用条件

是 永 純 弘

明治後期における造船工業の

発展と労働者状態

徳 永 重 良

惣結合の構造と歴史的位置

——菅浦惣の歴史を通しての一考察——

関 口 恒 雄

ロシア資本主義成立期の諸問題

——農業をめぐって——

中 山 弘 正

第三十二卷 第三号 (一九六四年七月 昭39)

論 文

銀行資本の理論

日 高 普

イギリス絶対王政下の石炭業(二)

田 中 豊 治

自由主義段階におけるバンク・レート(五)

——景気循環過程における信用関係の変動の分析——

川 上 忠 雄

第三十二卷 第四号 (一九六四年一〇月 昭39)

論 文

銀行資本についての補論

イギリス絶対王政下の石炭業(三)

日 高 普
田 中 豊 治

自由主義段階におけるバンク・レート(六)

——景気循環過程における信用関係の変動の分析——

川 上 忠 雄

第三十三卷 第一号 (一九六五年一月 昭40)

論 文

明治初年における宿駅制度の改廃

山 本 弘 文

イギリス機械工業における資本と賃労働(六)

——帝国主義段階と労働問題——

徳 永 重 良

紹 介

ランベール著『協同組合の社会哲学の研究』山村 喬

Paul Einzig: The Euro-Dollar System

——Practice and Theory of International

Interest Rates

尾 形 憲

ブラセンコ『ロシアにおける幣制改革一八九五—九八年』

B. E. BIAČENKO: ДЕНЕЖНАЯ РЕФОРМА

В РОССИИ 1895-1898 г.

中 山 弘 正

第三十三卷 第二号 (一九六五年五月 昭40)

論 文

いわゆる「発券の集中」の問題

日 高 普

イギリス機械工業における資本と賃労働(七・完)

徳永重良

研究ノート

初期マルクス発展史ノート(一)

——主として東ドイツの同時代資料について——

良知力

書評

ヘルマン・ベールス著
田中慎一郎監訳『ドイツにおける能率給制度』

Hermann Böhrs, Leistungslohn,

Wiesbaden 1951

徳永重良

第三十三巻 第三号 (一九六五年七月 昭40)

論文

中央銀行と普通銀行

日高普

イギリス絶対王政期の産業構造

——構造分析のための試論的考察—— 田中豊治

書評

菊地昌典著『ロシア農奴解放の研究』 中山弘正

第三十三巻 第四号 (一九六五年十一月 昭40)

論文

『資本論』の通貨主義批判

日高普

ナポレオン戦争下イギリスにおける貿易問題

——古典派国際経済理論推転の背景—— 松尾太郎

研究ノート

戦後日本の所得税制にかんする諸問題 高橋誠

第三十四巻 第一号 (一九六六年一月 昭41)

論文

『資本論』における銀行学派

日高普

イギリス機械工労働組合の政策と組織 徳永重良

畿内における「庄官」領主層の土地所有と経営

——山城国下久世庄公文藤原氏をめぐって——

関口恒雄

小ピット貿易政策の初期・過渡的性格

——アイルランド提議問題の分析—— 松尾太郎

資料

ソヴェト経済学における

数学利用論争にかんする資料 是永純弘

第三十四巻 第二・三号 (一九六六年七月 昭41)

経済学部創立45周年記念論文集
山村喬教授退任記念

経済学部四十五年の歩み 大島清

山村喬教授退職記念号に題して 山内一男

論文

フランシス・ベアリング卿のボイド批判 渡辺佐平

地代論序説

商業信用についての一考察

統計的方法の「有効性」について

イギリス機械工業の労資関係の転換点

——一八九七—八八大争議の分析——

畿内における「庄官」領主層の土地所有と経営

——山城国上久世庄公文舞田氏をめぐって——

中野正

日高普

是永純弘

徳永重良

関口恒雄

松尾太郎

イーデン条約の締結過程

私学の中小企業体的性質についての一考察

——東京の私立高校を中心として——

尾形憲

〔著作目録〕

山村 喬教授著作目録

第三十四巻 第四号 (一九六六年一〇月 昭41)

論 文

『三部経済制』の研究(一)

——日本地方財政史の一節——

高橋 誠

帝国主義段階のロシア資本主義(一)

——一八九〇年代と一九〇〇年恐慌——

中山 弘 正

紹介

Ernst Engelberg, Revolutionäre Politik und

Rote Feldpost 1878-1890. Berlin 1959. xi, 291p

書 評

山之内靖著『イギリス産業革命の

史的分析』

松尾 太郎

第三十五巻 第一号 (一九六七年一月 昭42)

論 文

帝国主義段階のロシア資本主義(二)

——戦争と革命と不況、一九〇三年—一九〇八年——

中山 弘 正

私学の中小企業体的性質について(二)

——私立大学の「不均等発展」——

尾 形 憲

紹介

ソヴェト経済学における

数学利用論争にかんする資料(二)

是 永 純 弘

初期マルクス発展史ノート(二)

——ブルーノ・バウアーの批判『無神論者

ヘーゲル』を中心に——

良 知 力

第三十五巻 第二号 (一九六七年五月 昭42)

論 文

国民所得計算における政府用役の

取扱について(一)

奥沢篤次郎

経済学史の課題と方法(一)

時 永 淑

紹 介

Carl Heinzen, Marx-Charakteristik

良 知 力

第三十五巻 第三号 (一九六七年九月 昭42)

論 文

大都市問題の財政学——一つの試論——

高 橋 誠

経済学史の理論と方法(二)

時 永 淑

明治初年における宿駅制度の改廃(二)

山 本 弘 文

〔研究ノート〕

戦後労働調査の一反省

山 本 潔

書 評

宮鍋幟『ソヴェト農産物価格論』

中 山 弘 正

第三十五巻 第四号 (一九六七年一〇月 昭42)

論 文

地代の内面構造

中 野 正

第二次世界大戦論(上)

川 上 忠 雄

ロシア国立銀行の金準備

——帝国主義段階のロシア資本主義IV——

中 山 弘 正

研究ノート

十九世紀末イギリス綿業とアジア市場

松 尾 太 郎

第三十六巻 第一号 (一九六八年一月 昭43)

論 文

国民所得計算における

政府用役の取扱について(二)

奥 沢 篤 次 郎

「三部経済制」の研究(二)

高 橋 誠

——日本地方財政史の一節——

第二次世界大戦論(中)

川 上 忠 雄

——その必然性と歴史的 성격——

ロシア国立銀行の金準備(二)

——帝国主義段階のロシア資本主義(IV)——

中 山 弘 正

私学の中小企業の体質について(二)

尾 形 憲

——私立大学の「不均等発展」——

第三十六巻 第二号 (一九六八年八月 昭43)

論 文

政府部面勘定の設定の問題をめぐって

——国民所得計算における政府用役の

取扱いについて(二)——

奥 沢 篤 次 郎

西原借款の財政問題(一)

高 橋 誠

研究ノート

『生産管理闘争について』の覚え書 山本 潔

書 評

E・ウイリアムズ著・中山毅訳『資本主義と奴隷制

——ニグロ史とイギリス経済史』 松尾 太郎

第三十六巻 第三号 (一九六八年九月 昭43)

論 文

第二次世界大戦論

——その必然性と歴史的 성격—— 川上 忠雄

アメリカ金融資本形成過程における鉄道業と

農業の連関について 五味 健吉

紹 介

M. W. Flinn, The Origins of the Industrial

Revolution, London, 1966 (x+114 p) 松尾 太郎

書 評

オスカー・モルゲンシュテルン

『経済統計の正確性について』

——Oskar Morgenstern, On the Accuracy

of Economic Observations, 2nd revised

ed., Princeton 1963, xiv+322 p. 是永 純弘

第三十六巻 第四号 (一九六八年十二月 昭43)

論 文

商業資本の自立化 日高 普

研究ノート

戦後労働調査の一反省(二)

——大河内調査論をめぐって—— 山本 潔

資料紹介

新たに刊行されるマルクス・エンゲルス全集の

歴史的批判的版(MEGA)について 良知 力

ジェイ・クック商会の崩壊

——一八七三年恐慌の一断面—— 佐々木 隆雄

第三十七巻 第一号 (一九六九年一月 昭44)

論 文

古典派における地代の構成(続)

商業資本の理論 中野 正

西ドイツの賃金と労資関係

——一つの覚え書—— 徳永 重良

自由主義段階におけるバンク・レート(七)

——景気循環過程における信用関係の変動の分析——

川上 忠雄

第三十七巻 第二号 (一九六九年四月 昭44)

論 文

中国社会主义革命におけるコミューン 山内 一男

農民分解論の批判的検討

大島 清

ドイツにおける手工業概念について

——中小企業問題国際比較研究の二前提——

清成 忠男

自由主義段階におけるバンク・レート(八)

——景気循環過程における信用関係の変動の分析——

川上 忠雄

研究案内

社会科学と統計

——統計学研究のために—— 是永 純弘

第三十七巻 第三号 (一九六九年七月 昭44)

論 文

農業統計におけるグループ分けの発展 喜多 克巳

地代の論理 日 高 普

自由主義段階におけるバンク・レート(九)

——景気循環過程における信用関係の変動の分析——

川上 忠雄

研究ノート

E・J・ホブズボームのイギリス資本主義像 松尾 太郎
インフレーション分析の課題(一一) 原 薫

研究案内

金融論の研究 渡辺 佐平

第三十七巻 第四号 (一九六九年十一月 昭44)

論 文

社会主義のもとでの経済法則 山内 一男

自由主義段階におけるバンク・レート(十)

——景気循環過程における信用関係の変動の分析——

川上 忠雄

現代アメリカの農工間労働力移動

——農業労働力の流出構造に関する覚書—— 五味 健吉

研究ノート

日本資本主義と大学 尾形 憲

チェックランドのイギリス産業社会の興隆 杉浦 克己

イギリス綿工業の停滞化とインド市場

一八八九年—一九一三年 佐々木 隆雄

第三十八巻 第一号 (一九七〇年二月 昭45)

論 文

景気循環過程

——一八三〇年代における—— 馬渡 尚憲

明治初年における宿駅制度の改廃(一二) 山本 弘文

価値表現の両極性 小林 弥六

東欧社会主義の歴史的規定条件 斎藤 稔

研究案内

近代経済学——一つのアプローチ——

山田耕之介

第三十八巻 第二号 (一九七〇年七月 昭45)

論文

「社会主義建設の総路線」に関する序説

山内一男

産業循環の機構——一八五〇年—六一——

杉浦克己

研究ノート

インフレーション分析の課題(二)

原 薫

資料紹介

陸羽街道馬車会社について

山本弘文

西ドイツ金属産業の

合理化保護協定について

徳永重良

第三十八巻 第三・四号 (一九七一年一月 昭46)

法政大学経済学部創立五十周年記念論文集(上)

「大河内理論」の理論的性格

徳永重良

商業資本と利潤率

日 高 普

教育経済論の課題と方法

尾 形 憲

マルクス、エンゲルスの

社会主義経済論について

斎 藤 稔

最近における中小企業の階層分解について

粕 谷 信 次

キング卿の紙券通貨減価論

渡 辺 佐 平

アイルランド叛乱(一七九八年)と

ナショナリズム

松尾 太郎

株式資本論の問題点

——R・ヒルファディングにおける——

馬 渡 尚 憲

『資本論』の労働時間論

萩 原 進

労働者階級の実証的歴史分析の方法について

——エンゲルス『イギリス労働者階級の状態』

の方法の場合——

村 串 仁 三 郎

リカードウの『大陸紀行——一八三二年』

——リカードウの一側面——

中 野 正

線型経済学のためのベクトル代数学

高 村 良 盛

第三十九巻 第一・二号 (一九七一年三月 昭46)

法政大学経済学部創立五十周年記念論文集(下)

「僻地」の近代化の条件について

森 嘉 兵 衛

アダム・スミスの労働と本源的購買貨幣説に

関する一考察

時 永 淑

ジョン・ロックにおける世俗政治と

宗教信仰

中 村 恒 矩

石油化学工業における賃金上昇と資本蓄積

小 林 謙 一

社会主義工業化の過程における農業問題

山 内 一 男

費用価格・生産価格および生産費

大 島 清

西原借款の展開過程

高 橋 誠

自由民権派の経済論

江村栄一

下総国猿島郡境町陸運会社について

山本弘文

中世末期における畿内村落と商業座

関口恒雄

十九世紀末アメリカ農業の発展構造

五味健吉

経済統計の正確性について(英文)

是永純弘

第三十九巻 第三号 (一九七一年七月 昭46)

論 文

アイルランド叛乱(一七九八年)挫折の経済史的背景

——民族自立のための産業的基礎構築の困難性——

松尾太郎

一八四〇年代のイギリス鉄道投資

杉浦克己

利潤の分割について

日高普

第二次世界大戦論(下の二)

川上忠雄

——その必然性と歴史的 성격——

尾形憲

——私立大学の経営と国庫補助——

尾形憲

第三十九巻 第四号 (一九七一年一〇月 昭46)

論 文

アイルランド併合(一八〇一年)の経済史的背景

——イギリス産業革命と少数民族——

松尾太郎

株式資本と所得

日高普

景気循環の「安定」と国際通貨体制の動揺 菰淵正晃

第二次世界大戦論(下の三)

——その必然性と歴史的 성격——

川上忠雄

線型経済学のための行列代数(二)

高村良盛

人件費補助の意味するもの(二)

——私立大学の経営と国庫補助——

尾形憲

第四十巻 第一号 (一九七二年一月 昭47)

シンポジウム

中国社会主义における「分業の廃棄」

基調論文

山内一男

討論

尾形 憲・川上 忠雄・小林 謙一

五味 健吉・斎藤 稔・中山 弘正

二瓶 剛男・増田 寿男・村串仁三郎

山内 一男

論 文

社会主義的経済統合としてのコメコン

斎藤 稔

第四十巻 第二号 (一九七二年七月 昭47)

論 文

テューダー後期の外国貿易(二)

『資本論』の成立過程(一)

田中豊治

研究ノート

時永 淑

独占分析への一視角——バラン・スウィージー共著
『独占資本』によせて—— 増田 寿男

第四十巻 第三号 (一九七二年九月 昭47)

論 文

テューダー後期の外国貿易(二) 田中 豊治
『資本論』の成立過程(二) 時 永 淑
「経済学批判体系」の一考察(一) 平林 千牧
管理通貨制度と国際通貨危機 蒺淵 正晃
——現代資本主義のジレンマ——

第四十巻 第四号 (一九七二年十一月 昭47)

論 文

テューダー後期の外国貿易(三) 田中 豊治
レーニンにおける社会主義経済論 斉 藤 稔
日本鉄鋼生産費分析 松 崎 義
インド伝統的農業制度分析の一視角(上) 絵 所 秀 紀
マルクス欲望理論の問題点と研究視角 村串 仁三郎
——マルクス欲望理論の研究(二)——

付 録

総目次の刊行にあたって
本誌創刊以来の総目次

山本 弘文

第四十一巻 第一号 (一九七三年一月 昭48)

論 文

小農的商品の費用価格について 大 島 清
インド伝統的農業制度分析の一視角(下) 絵 所 秀 紀
マルクス欲望理論の問題点と研究視角(下) 蒺淵 正晃
——マルクス欲望理論の研究(其ノ二)——
線型経済学のための行列代数学(2) 村串 仁三郎
高村 良盛

第四十一巻 第二号 (一九七三年七月 昭48)

論 文

貨幣資本の循環 日 高 普
日本鉄鋼生産費分析(二) 松 崎 義
「経済学批判体系」の一考察(二) 平林 千牧
自由主義段階のイギリス労働政策 天 野 勝 行
紹介
ロバート・ブレナー『一五五〇—一六五〇年イギリスの
貿易拡大の社会的基礎』 田中 豊治
研究ノート

私立大学教職員の賃金実態

尾 形 憲

——一九七二年ゼミ調査から——

第四十一卷 第三・四号 (一九七三年一〇月 昭48)

渡辺佐平教授退任記念論文集

渡辺佐平教授記念号に寄せて

山本弘文

論文

「資本一般」と恐慌論

馬渡尚憲

生産資本の循環形式の意味

日高普

現局面における農民層分解の形態

喜多克巳

前期スチュアート期の『貿易拡大』

田中豊治

アメリカのインフレ政策と国際通貨危機

菰淵正晃

貸借対照表本質論

市川文三

明治期普通銀行の

野田正穂

株式担保貸付についての一考察

西村閑也

国際収支と地域間収支

野田正穂

研究ノート

インド工業化過程における農業問題

絵所秀紀

経済地理学について

矢田俊文

書評

OECD教育調査団『日本の教育政策』

尾形憲

略歴・著作目録

渡辺佐平教授略歴・著作目録

第四十二巻 第一号 (一九七四年一月 昭49)

論文

高島炭坑における納屋制度の解体過程

——明治期高島炭坑の労務管理

村串仁三郎

近代化過程の分析(下)——

平林千牧

「経済学批判体系」の一考察(三)

佐々木隆雄

南北戦争とアメリカ経済

田中豊治

紹介

ラルフ・デーヴィス『イギリス海外貿易

一五〇〇〜一七〇〇年』

田中豊治

第四十二巻 第二号 (一九七四年八月 昭49)

論文

商品資本の循環形式

日高普

イギリスにおける財政統制の現代的展開

高橋誠

社会的実体としての「労働生産過程論」(上)

安田展敏

研究報告

アイルランドにおける近代経済史および

松尾太郎

北アイルランド問題研究の近況

松尾太郎

第四十二巻 第三号 (一九七四年二月 昭49)

論 文

中国の地方小型工業における蓄積構造

山内 一男

戦後資本主義世界再編の基本的性格

南 克巳

第一次大戦期重化学工業化と

「新興」財閥の資金調達機構

露見 誠良

資本形式論

小林 弥六

研究 ノート

わが国のインフレーション

原 薫

第四十二巻 第四号 (一九七五年三月 昭50)

論 文

「剰余価値の流通」について

日 高 普

イギリス地方財政の現代的展開(上)

高 橋 誠

常磐地方における飯場制度の成立過程

村串 仁三郎

アメリカ経済の低成長とインフレ

菰淵 正晃

研究 ノート

わが国のインフレーション(2)

原 薫

第四十三巻 第一号 (一九七五年三月 昭50)

論 文

アジア的生産様式論と『資本論』の構成

松尾 太郎

社会的実体としての「労働生産過程論」(下)

安田 展敏

現代社会主義における計画と市場

斎藤 稔

研究 ノート

わが国のインフレーション(3)

原 薫

コモンズ・パウルマン理論に関する覚書

萩原 進

第四十三巻 第二号 (一九七五年七月 昭50)

論 文

純粋な流通費用について

日 高 普

レーニンのアメリカ農業分析と統計利用

喜多 克己

戦後資本主義世界再編の基本的性格(承前)

南 克巳

常磐地方における飯場制度の展開過程

村串 仁三郎

研究 ノート

わが国のインフレーション(4)

原 薫

第四十三巻 第三号 (一九七五年一〇月 昭50)

論 文

恐慌論体系の展開方法について

久留間 鮫造

固定資本と流動資本

日 高 普

イギリス地方財政の現代的展開(中)

高 橋 誠

資本の流通

小林 弥六

ロシア十月革命直前における労働組合

辻 義 昌

第四十三巻 第四号 (一九七五年十二月 昭50)

論 文

「経済学批判体系」の一考察(四)

平 林 千 牧

研究ノート

「労農」小史

鈴 木 徹 三

論 文

経済理論のための集合論(1)

高 村 良 盛

第四十四巻 第一号 (一九七六年三月 昭51)

論 文

古典古代的生産様式論と『資本論』の構成
松 尾 太 郎

インド重工業化の経済的帰結

絵 所 秀 紀

資本の回転

日 高 普

日本金融資本確立期における日銀信用体系の再編成

霧 見 誠 良

研究ノート

E・J・ホブズボームの十七世紀

ヨーロッパ経済危機論

田 中 豊 治

第四十四巻 第二号 (一九七六年七月 昭51)

論 文

資本の分割

日 高 普

十九世紀中葉におけるアイルランド農業
の植民地的発展形態——十九世紀末

農地改革の前提条件の形成——

松 尾 太 郎

研究ノート

高等教育卒業者のブルーカラー化について

尾 形 憲

第四十四巻 第三号 (一九七六年一〇月 昭51)

論 文

恐慌論体系の展開方法について(二)

久 留 間 鮫 造

フランスにおける大衆型労働組合運動の展開

——「書籍労働者連盟」一八八一—一九一四年——

長 部 重 康

“Rules Make some Goods Public”
Some Suggestions to the Normative
Question: “Which Goods should be
Public?”

Kazuyoshi Kurokawa

第四十四巻 第四号 (一九七六年十二月 昭51)

論 文

A・スミス『国富論』刊行二百年記念特集

スミスとマルクスとにおける二重の社会像

——マルクスのスミス労働価値説批判にか

んする一考察——

スミス・アイルランド・歴史主義

時 永 淑
松 尾 太 郎

A・スミスの「生産的労働」に関する一考察

スミスの視点とイギリス経済の現状分析

平 林 千 牧
中 野 正

研究ノート

スミス『諸国民の富』刊行二百年雑感

中 村 恒 矩

紹介

A・スミスのスネル奨学基金給費生推薦状

時 永 淑

ナポレオンの『国富論』ノート

長 部 重 康

第四十五巻 第一号 (一九七七年三月 昭52)

論 文

封建的生産様式論と『資本論』の構成

松 尾 太 郎

再生産表式への導入

日 高 普

資本の三形式の展開方法について

——「貨幣の資本への転化」問題——

時 永 淑

研究ノート

ベトナムの社会主義

斎 藤 稔

論 文

経済理論のための集合論

高 村 良 盛

第四十五巻 第二号 (一九七七年八月 昭52)

論 文

『恐慌の理論と歴史』に関する一省察

小 沢 光 利

単純再生産表式の前提

日 高 普

イギリス地方財政の現代的展開(下・完)

高 橋 誠

研究報告

大島、田中、小林、南、松尾、関口、永井

第四十五巻 第三号 (一九七七年一〇月 昭52)

論 文

再生産表式への展開

日 高 普

第一次大戦期のアメリカ対外金融関係(一)

——ニューヨークの国際金融センター化と関連して——

平 田 喜 彦

アイルランド土地立法と石黒農政

——土地改革をめぐる諸思想の位相—— 松 尾 太 郎

第四十五巻 第四号 (一九七七年二月 昭52)

論 文

交替制労働と労働時間短縮問題

——鉄鋼労資関係についての覚書——

松 崎 義

成定期日本信用機構の論理と構造(上)

霧 見 誠 良

経済理論のための集合論(3)

高村良盛

第四十六巻 第一号 (一九七八年三月 昭53)

論文

現代ロンドン財政の構造的特質

高橋誠

「ヒルトン・ヤング委員会」報告分析(1)

——「国際金本位制再建」下のインド幣制改革——

絵所秀紀

成立期日本信用機構の論理と構造(中)

露見誠良

第四十六巻 第二・三合併号

(一九七八年一〇月 昭53)

学部長あいさつ

古川哲

論文

再生産表式と貨幣材料

日高普

ヴェーバー都市論の基本問題

田中豊治

産業循環の古典形態

藤川昌弘

成立期日本信用機構の論理と構造(下・その一)

露見誠良

リカードの労働価値論

——彼の絶対価値の性格に関連して——

平林千牧

研究ノート

感動の記録と「法政ランチ」

——ある教育実践のなかから——

尾形憲

紹介

ヨーロッパ統計家会議

——その設立から一九六〇年代前半まで——

伊藤陽一

翻訳

カール・マルクス『論評』

——貨幣、信用、恐慌に関する一八五一年の一論稿——

大谷禎之介

研究報告

鈴木、日高、高橋、高村、中村、
斎藤、大谷、藤川、村串、江村

論文

Researches on Irish Land Laws Undertaken
by Japanese Bureaucrats Facing the Tenancy
Question in the 1920
Taro Matsuo

第四十六巻 第四号 (一九七八年二月 昭53)

論文

貨幣材料の再生産について

日高普

成立期日本信用機構の論理と構造(下・その二)

露見誠良

紹介

チリ人民連合政府と統計

——第六回汎米統計会議（一九七二年

サンチャゴ）でのチリ国家計画

局長のあいさつ——

書 評

弓削達『地中海世界とローマ帝国』

論 文

伊藤陽一
松尾太郎

Inventories, Windfalls and A Non-tatonnement

Process in an Aggregate Disequilibrium Model

with the Loanable Funds Theory Koichi Miyazaki

第四十七巻 第一号（一九七九年三月 昭54）

論 文

拡張再生産表式

日 高 普

ヴェーバー都市論における「都市」概念

田 中 豊 治

高齢化による職業・生活変動

——地域調査による変動分析——

小 林 謙 一

紹 介

米州統計協会

伊藤陽一

論 文

経済動学のための差分方程式(1)

高 村 良 盛

第四十七巻 第二号（一九七九年七月 昭54）

論 文

カナダ資本主義の構造的特質

——あるいは従属の歪み——

研 究 報 告

時永、山本、尾形、川上、平田、増田、霧見

論 文

現代イギリス都市財政の分析(上)

“Must the Lawyer Keep Constitutional Rules?”

高 橋 誠
黒 川 和 美

Interest Payments, the Demand Deposit and

the Hypothesis of the Firms' Liquidity-

Maximization: A Basic Revision of Keynes'

Interest Theory

宮 崎 耕 一

第四十七巻 第三号（一九七九年九月 昭54）

論 文

『資本論』の形成と「潜勢的恐慌」

——「潜勢的恐慌」と「実在的恐慌」

との連繋について(一)——

研 究 ノ ー ト

ソビエトにおける国勢調査の展開

小 沢 光 利
森 博 美

中国型社会主義は存在するか
春闘賃上げの労使関係要因

斎藤 稔

——おもに舟橋教授のコメントに答える——

小林 謙一

紹介

アメリカ合衆国連邦統計制度と人口・住宅センサス

——統計制度の民主化の視角から—— 伊藤 陽一

第四十七巻 第四号 (一九七九年二月 昭54)

論文

拡張再生産表式の問題

日 高 普

成立期日本信用機構の論理と構造(完)

露 見 誠 良

研究ノート

イギリス——その雑多なる印象——

中 村 恒 矩

論文

経済動学のための差分方程式(2)

高 村 良 盛

現代イギリス都市財政の分析(下)

高 橋 誠

第四十八巻 第一号 (一九八〇年三月 昭55)

論文

十九世紀中葉アイルランドにおける宗教の相剋と

Lafcadio Hearn

松 尾 太 郎

統計調査「準備過程」に関する一考察

——ソビエト国勢調査を素材として—— 森 博 美
研究ノート

わが国のインフレーション

昭和三〇年代(1)

原 薫

書 評

角山栄総編集『講座西洋経済史』(第一、二、五巻)

松 尾 太 郎

シンポジウム

スウィーजीの「社会主義」論をめぐって

高橋、斎藤、大島、川上、佐々木、中村、
日高、増田、山内

研究ノート

Economic Development and Fiscal Policy

in the Meiji Era Makoto Takahashi

第四十八巻 第二号 (一九八〇年六月 昭55)

論文

アイルランド独立戦争(一九一九～二一年)と土地改革

松 尾 太 郎

定年退職者の能力類型と職業変動

小 林 謙 一

「実在的恐慌」への模索——その端緒段階

——「潜勢的恐慌」と「実在的恐慌」

との連繫について(一)—— 小 沢 光 利

研究ノート

「特別剰余価値と超過利潤」序説

藤川 昌弘

研究報告

古川、宇佐美、山内、喜多、原、伊藤、五味、粕谷、平林、松崎、小沢

紹介

S. L. Shetty, "Structural Retrogression in the Indian Economy since the Mid-Sixties"

絵所 秀紀

論文

Endogenous Money, the Gross Profit Rate and Effects of the Interest Rate Policy Koichi Miyazaki

第四十八巻 第三号 (一九八〇年二月 昭55)

法政大学創立百周年

経済学部創立六十周年 記念論文集(上)

六十周年記念論文集の刊行にあたって

中村 恒矩

大内兵衛先生の前後

——経済学部の隣人としての祝辞——

中村 哲

論文

拡張再生産表式の展開

日高 普

日本外務省記録に現れたアイルランド独立問題

松尾 太郎

友子研究の回顧と課題

——日本鉱夫組合史研究序説の一齣として——

村串 仁三郎

昭和恐慌と反独占農民運動

大島 清

承認統計の特質とその利用可能性

森 博美

高齢者農家の経済分析

——「農家経済調査報告」などの組替え集計による

小林 謙一

わが国現代インフレの諸問題

原 薫

「要員合理化」と「成果配分」問題

——鉄鋼労使関係についての一考察——

松崎 義

日本の高等教育計画

尾形 憲

定数係数二階線形差分方程式の解法

高村 良盛

東欧社会主義の歴史的転換点

——チェコスロヴァキア、一九四八——

斎藤 稔

第四十八巻 第四号 (一九八一年三月 昭55)

法政大学創立百周年

経済学部創立六十周年 記念論文集(下)

地域経済論における二つの視角

矢田 俊文

「貨幣の資本への転化」問題再論

時永 淑

地方公教育における政府間財政関係

——一つの国際比較——

高橋 誠

「貨幣の資本への転化」に関する一考察

——商人資本的形式を中心として——

平林 千牧

貿易取引におけるドルの役割

佐々木 隆雄

スタグフレーションに関する若干の考察

——大内力氏の見解の検討——

増田 寿男

第一次大戦期コール市場の確立

——その市場構造——

露見 誠良

自由党結成再論

——自由民権史論の一環として——

江村 栄一

フランスにおける新しい労働運動の形成と

自主管理社会主義——CFTCからCFDTへ——

長部 重康

黒人差別とアメリカ資本主義の現段階

粕谷 信次

途上国非制度的農村信用市場論

——インド金融構造論へ向けての一サーベイ——

絵所 秀紀

別冊付録

経済志林総索引（付経済学部教員録）